

1 房総の寺社参詣

房総には香取神宮や成田山新勝寺といった庶民の信仰を集める神社仏閣が存在しました。特に、現世利益の教を説く新勝寺は、江戸町人の気風に合致したことから多くの信仰を集める要因ともなり、さらに歌舞伎役者の初代市川團十郎は、不動明王に対する深い信仰心から成田屋を号し、不動尊の靈験を題材とした芝居を演じたことで、江戸町人の喝采を浴びました。

千住宿から分かれて佐倉に至る佐倉街道(佐倉道)は、成田参詣が盛んになった文化・文政期(1804～1830年)以降、成田街道(成田道)と呼ばれるようになりました。成田参詣は江戸からこの街道を利用した旅であり、行徳辺りまで船を利用することもありましたが、江戸町人にとって気軽に出かけることのできる物見遊山の場所として大いに賑わったのです。

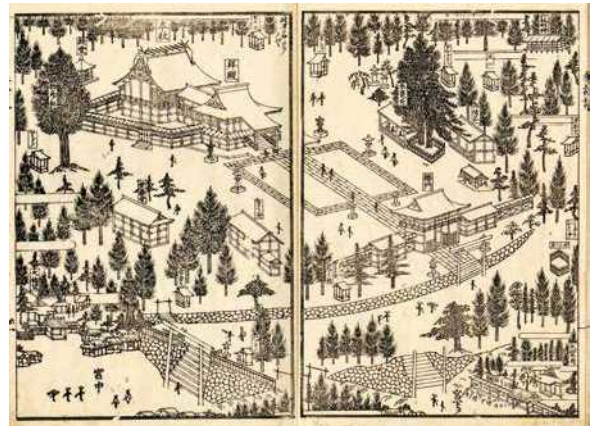


3.成田山境内并市街全図(『成田山霊場実記 全』より) 明治18年(1885)

『成田山霊場実記』に挿絵として使われているもの。新勝寺の境内の様子とともに、各町内の「旅人宿」の名前が記されている。

4.『香取参詣記』 文政11年(1828)

香取神宮の縁起をはじめとして、境内はもとより近隣の模様まで記述がある。著者は香取郡津宮村(現香取市)の儒学者久保木清淵。



10.成田本山(『成田土産名所図絵』より) 明治23年(1890)

深川から新勝寺までの各地の様子を描いた折り本形式の案内書。外題は「成田土産名所図絵」だが、描かれた各風景のタイトルは「成田土産名所尽」となっている。

